

# 観光資源としてのカリブ海

カルデナス・イバン

カリブ海に浮かぶ島々は大航海時代には中南米の財宝をスペインに運ぶ中継地点として栄え、時代が下ると砂糖及び奴隷貿易の重要な地域として、欧米列挙の争奪戦が繰り広げられた歴史を持っている。カリブ海はまた、海賊が活躍した地でもあり、映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」をはじめ、その知名度は高い。

筆者が赴任したマイアミではクルーズによるカリブ海ツアーが盛んである。同市には世界最大手のクルーズ会社であるカーニバル (Carnival Corporation) 及びロイヤル・カリビアン (Royal Caribbean Cruises) の本社があり、両社だけで全米クルーズ船客室数の3/4を占めている。マイアミの北部に位置するエバングレース港やカナベラル港等を含めるとフロリダ州は全米クルーズ船客数の6割のシェアを誇り、毎年600万人以上のクルーズ客が同州から乗降している。そして、その主な先行はカリブ海地域である。本稿では、クルーズ客船に代表されるような観光資源としてのカリブ海について考察してみたい。観光資源としてのカリブ海地域の長所と短所、課題と機会について、データなどを交えながら説明し、これを受けて最後にまとめを論じる。

## 気候、地理、制度という長所

カリブ海は世界中のクルーズツアーの中でも最も

人気のある場所であり、フロリダ・カリブ・クルーズ協会 (FCCA) の調べによれば、2013年に実施された全クルーズツアーの37.3%はカリブ海を目的地にしていた。特に北半球の冬に当たる12月から3月まではピークシーズンであり、クルーズ以外に飛行機で行く旅行者 (以下、宿泊客) の数も最も多くなる季節である。表1ではカリブ観光機構 (CTO) がまとめた2007年から2013年までの旅行者数の推移を表している。2008年及び2009年に落ち込みはあるものの、旅行者数は着実に増加の一途をたどっている。北米、特にフロリダ州との距離も近いことから、米国からの観光客が最も多く、表2の通り宿泊客の約半数は米国人である。ただし、これは国や地域により異なり、イギリス領の地域ではイギリスの、フランス領の地域ではフランス人の観光客が多くなっている。キューバの場合はカナダ人の観光客が最も多い。

また、北米に近いだけでなく、カリブ海の島々は比較的小互い近距離にあるため、クルーズ船は複数の島に停泊し、いくつもの国や地域を一度に見て廻ることが可能になっている。このようなクルーズの周遊を可能にしている背景に、カリブ地域の多くの国々が査証免除の体制を整えている点があげられる。国連世界観光機構 (UNWTO) が行った調査によれば、観光振興の一環として多くのカリブ諸国は事前の査証取得

表1 カリブ海地域旅行者数推移 (千人)

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
宿泊客	22,889.8	22,941.7	22,426.5	22,790.1	23,407.0	24,564.3	25,010.3
クルーズ客	19,363.1	18,881.1	19,452.4	21,125.4	21,544.2	21,313.1	21,884.8
合計	42,252.9	41,822.8	41,878.9	43,915.5	44,951.2	45,877.4	46,895.1

出所: CTO

表2 カリブ海地域宿泊客数推移 (千人)

	2009	2010	2011	2012	2013
米国	11,278	11,305	11,404	11,976	12,323
カナダ	2,559	2,677	2,865	3,064	3,086
欧州	4,916	4,857	4,963	4,917	4,734
カリブ	1,458	1,487	1,584	1,563	1,595
南米	859	898	1,132	1,290	1,457
その他	1,357	1,566	1,459	1,756	1,815
合計	22,427	22,790	23,407	24,564	25,010

出所: CTO

表3 クルーズ会社プライベートビーチ一覧

国	ビーチ名または島名	運用クルーズ会社
バハマ	Castaway Cay	Disney Cruise Line
バハマ	Princess Cays	Princess Cruises (Carnival)
バハマ	CocoCay	Royal Caribbean
バハマ	Great Stirrup Cay	Norwegian Cruise Line
バハマ	Half Moon Cay	Holland America Line (Carnival)
ドミニカ共和国	Islas Catalina	Costa (Carnival)
ドミニカ共和国	Cayo Levantado	MSC Cruises
ホンジュラス	Mahogany Beach	Carnival Cruise Line
ハイチ	Labadee	Royal Caribbean

筆者作製

を免除しており、中でもドミニカ国は100%の査証免除体制を実施し、ハイチ（同99%）、タクス&カICOS諸島（同80%）、モンセラテ、ガイアナ、セントビンセント&グレナディーン諸島がこれに続く（同76%）。また、ホテルの建設や増改築などの大型投資プロジェクトに対して税制優遇を実施している国もあり、一つの島やビーチを観光開発用にコンセッション方式でクルーズ会社に数十年契約で開発権を供与している例もある。表3は筆者が調べたクルーズ船各社のいわゆる「プライベートビーチ」の一覧表である。これ以外にホテルとカジノ、さらにテーマパークを揃えた複合施設もバハマを中心に複数あり、最近ではマレーシアのゲンティング（Genting）社がビミニ島にカジノ施設を建設中であり、中国輸出入銀行の出資を得た複合施設 Baha mar は今年末にオープン予定である。

#### 観光業への依存体質という短所

前述の通り、カリブ海地域の観光業はダイナミックに発展を遂げており、多くの国では観光業が第一の産業、かつ第一の雇用源となっている。資源国であるトリニダード・トバゴやスリナムの場合、観光業のGDPに対する寄与度が低い一方で、バハマやバルバドスではその寄与度が約50%に達し、一産業かつ一カ国（米国）に依存している状況である。バハマのように雇用の6割を観光業に依存している国の場合、観光客の減少が大きな問題を引き起こす。事実、2008年に米国で起きた金融危機のあおりを受け、バハマは2年連続でマイナス成長を記録し、失業率が跳ね上がった。現在でも失業率が15%を超えており、経済は完全な回復を遂げていない。また政府総債務残高が

対GDP比で80%を超えている国がジャマイカを含め5カ国もあり、カリブ海地域の財政状況が脆弱であることが窺える。

もう一つの問題はクルーズ客船による経済波及効果が限定的である点が挙げられる。FCCAの調査によれば、クルーズ船のカリブ地域における総支出額（税金等含む）は19.9億米ドルであり、45,000人の雇用が創出されている。しかし、クルーズ客一人が各寄港先に滞在する時間は平均で4.2時間しかなく、各滞在先で支出する金額は平均でわずか95.9米ドルである。一滞在の平均支出額が約1,500米ドルの宿泊客と雲泥の差である。クルーズ客の場合、宿泊だけでなく食事や船上の娯楽が料金の中に含まれており、さらに寄港先ではプライベートビーチ滞在等のアトラクションやそこに行くまでの移動もクルーズ船内で予約が可能であり、クルーズ内の専用カードで支払いを済ませることも出来る。そのため、寄港先でお金を使う機会が少なく、前述の同調査では寄港先で最も多く購入された品目は時計・宝石であり（平均37.7ドル）、クルーズ客はレストラン（同6.9ドル）や民芸品（同5.7ドル）、タクシー・交通費（同4.1ドル）にあまりお金を使わない。

#### 地域全体の課題と機会

このようにカリブ海地域の観光業がダイナミックに変化を遂げている半面、足元の脆さが懸念される。さらに、外的要因として脅威とみなしうるのは昨今の海岸浸食の気候変動や、麻薬密輸、治安の悪化等である。バハマやドミニカ共和国、セントクリストファー&ネービスの殺人率は近年増加傾向にあり、2010年にジャマイカで起きた麻薬王クリストファー・コーク



ナッソー（バハマ）に停泊するクルーズ船 撮影：筆者



ナッソーのストローマーケット 撮影：筆者

逮捕の際にギャング組織と警察が繰り広げた銃撃戦が記憶に新しい。

その一方で、米国の経済回復に呼応して観光客数の増加がカリブ海全体で見込まれている。CTO 調査部によれば、2014 年はカリブ地域にとって良い年となる予定で、宿泊客の数が 2～3% 増加するのみでなく、支出額も増える見込みである。クルーズ客数についても今年は 3% 以上の伸びを見せると CTO は分析している。新興国の成長もカリブ諸国にとって重要であり、特にブラジルをはじめとする南米の新興国に大きな潜在力があると、米州開発銀行 (IDB) は分析している。表 2 にあるとおり、南米からの観光客は 2009 年に比べて 70% も増えており、その主な行先はアルバ (26.1%)、ジャマイカ (15.9%)、スリナム (12.4%)、及びキュラソー (9.5%) 等の比較的南米に近い地域であった。IDB は南米からの旅行客数の増加傾向に着目し、カリブ諸国の新たな市場としてブラジルでの観光プロモーションを支援している。各国もまた新興国へのアプローチを推進しており、ジャマイカは 2013

年にロシア、チェコなどの東欧 6 개국出身の観光客に対して査証を免除することを決定し、さらに免除の対象となっているコロンビア、ベネズエラ、パナマの免除措置を延長している。

また、世界経済フォーラムが発表している 2013 年観光競争力レポート (The Travel & Tourism Competitiveness Report 2013) ではカリブ地域 8 カ国が調査の対象となっている。その中で最も上位に入ったのはバルバドスで 27 位、最も下位はハイチでランキング最下位の 140 位であった。このようにカリブ海地域は一律ではないため、それぞれが直面している課題が異なるのは容易に想像できる。ただし、同ランキングの中でほとんどのカリブ諸国が下位に位置した項目があり、それは「自然資源」であった。自然資源とは各国の自然世界遺産の数、その保全状況、動植物の多様性、陸上や海水の保護指定区域の有無や面積等を指している。表 4 ではカリブ海地域の世界遺産の一覧表を載せているが、同競争力レポートではカリブ諸国が「自然資源」で平均より低い順位についていることから、これらの項目での改善の余地があるといえる。

表 4 カリブ海諸国・地域の世界遺産一覧

世界遺産名	種類	認定年
キューバ共和国		
オールド・ハバナとその要塞群	文化遺産	1982
トリニダードとロス・インヘニオス渓谷	文化遺産	1988
サンティアゴ・デ・クーバのサン・ペドロ・デ・ラ・ロカ城	文化遺産	1997
ビニャレス渓谷	文化遺産	1999
グランマ号上陸記念国立公園	自然遺産	1999
キューバ南東部のコーヒー農園発祥地の景観	文化遺産	2000
アレハンドロ・デ・フンボルト国立公園	自然遺産	2001
シエンフェゴスの都市歴史地区	文化遺産	2005
カマグエイの歴史地区	文化遺産	2008
セントクリストファー・ネーヴィス		
ブリムストーン・ヒル要塞国立公園	文化遺産	1999
セントルシア		
ピトズ・マネジメント・エリア	自然遺産	2004
ドミニカ共和国		
サント・ドミンゴ植民都市	文化遺産	1990
ドミニカ国		
モーン・トロワ・ピトズ国立公園	自然遺産	1997
ハイチ共和国		
国立歴史公園・シタデル、サン・スーシ、ラミエ	文化遺産	1982
バルバドス		
ブリッジタウン歴史地区とその要塞	文化遺産	2011
ベリーズ		
ベリーズのバリア・リーフ保護区	自然遺産	1996
プエルトリコ		
プエルトリコのラ・フォルタレサとサン・ファン国定史跡	文化遺産	1983
スリナム共和国		
中央スリナム自然保護区	自然遺産	2000
パラマリボ市街歴史地区	文化遺産	2002

出所：www.unesco.or.jp

## 結論

カリブ海地域は大きな潜在力を秘めている。クルーズ会社の大半はフロリダが起点となっていることから、キューバへのクルーズ船はまだ下火であるが、同国が大きなポテンシャルを有しているとの指摘が多い。また、旅行客の多様化を目指し、カリブ諸国がブラジルに期待を寄せている点が興味深い。しかし、2013 年に海外旅行に出かけたブラジル人が世界で最も多く訪れた街の上位 5 位はオーランド、ニューヨーク、マイアミ、ブエノスアイレスとレイク・ブエナビスタ (フロリダ州) であったことから、気候だけではなくショッピングやエンターテインメントもブラジル人観光客にとって重要な要素であるようだ。

また、環境問題や麻薬密輸等の脅威は一カ国だけでなく、地域全体で取り組まなければならない課題であろう。麻薬や治安問題については米国の主導により 2010 年から「カリブ海安全保障イニシアチブ (CBSI)」が、カリコム及びドミニカ共和国との連携の下で行われており、今後も地域全体での取り組みが期待される。

(かるでなす いばん ラテンアメリカ協会ラテンアメリカ・カリブ研究所 前在マイアミ総領事館専門調査員)